

報道関係者各位

2017年3月28日

子どもたちのインターネット利用について考える研究会

「スマホ育児」で越えてはいけない一線をより具体的に  
国内外の学術研究の文献調査結果や、保護者向けセルフチェックリストを公開  
～不安を感じる保護者向けに、より具体的な判断材料と行動指針を提供～

子どもたちのインターネット利用について考える研究会(座長:お茶の水女子大学 教授 坂元 章、以下「子どもネット研」)は、2016年7月から取り組んできた第八期調査研究活動「低年齢の子どもとインターネット」の活動報告書を取りまとめ、本日より研究会ウェブサイトで公開します。併せて、未就学児のスマートフォン利用に不安を感じる保護者向けにセルフチェックリストの提供も開始します。

「スマホ育児」などと、乳児・幼児からの情報機器・インターネットへの接触による、心身発達への悪影響が懸念される状況を受け、子どもネット研では、「低年齢の子どもとインターネット」をテーマに第八期調査研究活動に取り組んできました。調査研究の一環として実施した「未就学児の生活習慣とインターネット利用に関する保護者意識調査」では、2015年の総務省による先行調査「未就学児等のICT利活用に係る保護者の意識に関する調査」と比べ、未就学児利用の大幅な増加が見られました。また、多くの保護者が何らかの不安を感じながらも、いわゆる「スマホ育児」とは無縁ではいられない状況にあることがわかりました。その後、情報機器の利用が子どもの発達に与える影響についての学術研究の文献調査や、先進的な教育啓発実践例の視察などを通して、保護者向けの情報提供において、「伝えるべきこと」と「伝え方」の整理を進めてきました。

検討の結果、スマートフォンなど情報機器の未就学児への利用のさせ方はどこで線引きをすべきなのか、保護者の判断や学習に役立つ、より具体的な情報を、チェックリスト形式で提供することとしました。

今回提供する同リストは、「機器利用の時間や場面」「情報の内容と保護者の関わり方」「機器の与え方」「保護者自身の知識や使い方」という4領域に分かれています。保護者は計16問の質問に答えることで、現時点での各家庭の取り組みの適切さが簡易に自己診断できます。その後さらに、各質問についての解説シートを読むことで、懸念すべき点についての正確な知識も習得することができるようになっています。提供する情報を特に優先度の高いものに絞り込むなど、保護者の負荷に配慮しつつ、子どもへの悪影響を抑えようという試みです。

その他、報告書では、地方自治体などを対象に、(1)未就学期のスマホ利用の意味合いについて、メディアリテラシー教育の観点からの再定義が必要、(2)保護者に対しては、注意喚起だけでなく、判断や対処に役立つ具体的な情報提供が必要、(3)未就学児の保護者向け教育啓発は、より広い子育て支援施策の一環として進めるべき、などの提言をまとめています。

本研究会では、教育啓発に関わる行政担当者や地域で活動する各種団体などに、今期の活動で得られた知見を提供するなど、広く保護者向けの情報提供の充実や実効性の向上に資する活動に取り組む予定です。

#### ■セルフチェックリストの提供について

セルフチェックリストの全文(一部を別紙1として掲載)は、PDF形式のデータで、本日より研究会のウェブサイト(<http://www.child-safenet.jp/material/checklist/>)上に掲載します。どなたでも自由にダウンロードが可能です。

また、幼稚園や保育園、認定子ども園などの保育施設や行政等が開催する保護者向け学習会等では、本リストの紹介、配布が自由に行えます。保育施設や学校、地方自治体、教育啓発に関わる地域団体などは、それぞれが作成する教育啓発資料等にセルフチェックリストを組み込み、再配布することも可能です。(一部質問項目のみの掲載は不可)

#### ■活動報告書について

第八期活動報告書の全文は、PDF形式のデータで、本日より研究会のウェブサイト(<http://www.child-safenet.jp/activity/2757/>)上に掲載します。どなたでも自由にダウンロードが可能です。

- 第八期調査研究活動の成果概要(保護者向けセルフチェックリスト、関係者向け提言)
- 第八期調査研究テーマ選択の背景(保護者を取り巻く状況、本研究会のこれまでの取り組みと問題意識)
- 今期の調査検討の結果(保護者に伝えるべきこと、保護者への伝え方)※一部を別紙2として掲載
- 今期の活動記録等(体制、本会開催記録、調査および検討の実際)
- 付録(保護者調査の調査票および集計結果全文、文献調査結果報告書全文)

#### ■「子どもネット研」について

子どもたちのインターネット利用について考える研究会(子どもネット研)は、子どもたちのインターネット利用をより豊かで安心なものにするために、諸課題を調査・研究し、保護者や行政・業界関係者向けに整理された情報を提供するために2008年4月に設立された専門家会議です。事務局はヤフー株式会社、ネットスター株式会社およびアルプス システム インテグレーション株式会社が担当している他、ピットクルー株式会社が運営に協力しています。

子どもの発達や教育、メディアとの関わりに詳しい学識経験者を中心に、学校関係者や保護者が集まり、これまでに「子どもたちの段階的なインターネット利用デビューのあり方」や「保護者向けの教育啓発のあり方」など調査研究し、その結果を関係者に提言しています。またPTAや地方自治体と協力し、安全利用のための教育啓発活動の実践やその効果測定にも取り組んでいます。

<http://www.child-safenet.jp/>

(別紙1)

- 未就学児の情報機器利用 保護者向けセルフチェックリスト(3歳から6歳)  
(1 ページ目を抜粋)

🌸 子どもたちのインターネット利用について考える研究会

## 未就学児の情報機器利用 保護者向けセルフチェックリスト (3歳から6歳)

スマートフォンやタブレット、ゲーム機などの使わせ方について、  
利用の頻度を選んだ上で、当てはまるものに  チェックをしてください。

**利用の頻度**  
 ほぼ毎日使わせている、 週に何度かは使わせることがある、 外出の時に使わせることがある  
→ 上記に該当する方は、AからDすべてお答えください  
 まだ使わせていない → Dのみお答えください

**ご家庭でのお子さんへの使わせ方に近いのは？**

**A 機器利用の時間や場面について**

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | ベッドや布団に入る1時間前には利用を終わらせ、「夜ふかし」や「寝不足」にならないようにしている             |
| <input type="checkbox"/> | 利用時間は、1日に合計で1時間以内にするよう気を付けている                               |
| <input type="checkbox"/> | 遊びが機器の利用にかたよらないように、さまざまな遊びをさせることに気を配っている                    |
| <input type="checkbox"/> | 食事中に使わせないなど、利用してよい場面や時間帯を決めて、保護者や祖父母など関わる大人の間で、そのルールを共有している |

→解説シートA (P3)へ

**B 情報の内容と保護者の関わり方**

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 見ている動画や遊んでいるゲームの内容は、保護者が把握・管理し、良質でふさわしいものを選んでいる           |
| <input type="checkbox"/> | 利用時に、できるだけ親子で一緒に見たり、遊んだりしながら会話をし、子どもの理解について気をくばっている       |
| <input type="checkbox"/> | 声を出したり興味を示している時は、積極的に話しかけ、子どもの反応や問いかけにもこたえている             |
| <input type="checkbox"/> | 見るだけで完結するものでなく、体験的な遊びに繋がったり、創造性を育む余地があるものを選ぶなど、使い方を工夫している |

→解説シートB (P4)へ

**C 機器の与え方**

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 使うときの「お約束」を作り、「静かにさせるため」や「子どもが使いたがるから……」とあって、すぐに機器を渡すのではなく、子どもにしつけや生活習慣を身に付けさせることを優先して、さどす努力をしている |
| <input type="checkbox"/> | 外出するときは、機器以外のお気に入りのものを持参するなど、「飽きさせない」「楽しませる」準備をするなど、工夫をしている                                       |
| <input type="checkbox"/> | やむを得ず外出先で使わせる場合は、一回15分以下の利用にとどめ、電車や自転車などの車内では、乗り物が動いているときは避けるようにしている                              |
| <input type="checkbox"/> | 機器で見たり遊んだ内容を、身の回りの生活にあてはめたりできるよう、声かけするなどして手助けしている   |

→解説シートC (P5)へ

**D 保護者自身の知識や使い方**

※まだ使わせていない方はこちらのみお答えください

|                          |   |
|--------------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | 年齢ごとの標準的な「必要睡眠時間」の目安について知っている                         |
| <input type="checkbox"/> | 乳幼児期の睡眠は、時間だけではなく「時間帯や質」も重要だと知っている                    |
| <input type="checkbox"/> | 「食卓上にスマホを出さない」「人と話しているときに使わない」など、子どものお手本となる使い方を心がけている |
| <input type="checkbox"/> | パスコードによるロックやフィルタリング設定など、保護者ができる利用管理機能について知っている        |

✓の数を数えて、確認シート(次ページ)でセルフチェックしましょう。解説は各シートをご覧ください。→解説シートD (P6)へ

[www.child-safenet.jp](http://www.child-safenet.jp)

(別紙2)

- 表:未就学児の情報機器・インターネット利用のあり方のまとめ  
(報告書第三章「今期の調査検討の結果」より一部を抜粋)

|                   | 悪い例                                | 望ましい例  |
|-------------------|------------------------------------|--|
| いつ<br>(時間帯)       | 就寝直前ぎりぎりまでの利用が習慣化。                 | ベッドや布団に入る一時間前までには利用を終える。   |
| どのくらい<br>(時間数)    | 利用時間の制限なく、子どもが見たいだけいくらでも見せる。       | 外出中などは一回あたり15分以内にとどめる。一日あたりの利用は一時間程度を上限とし、自宅での遊び時間の半分を超えないように。                           |
| 何を<br>(用途や内容)     | 子どもが見たい動画を自分で検索して自由に見る。            | 動画やゲームなど、受け身で終わる利用は減らす。情報機器だけで完結しない利用方法やアプリの選択を心がける。動画やゲームを利用する際には、年齢相応の内容かどうかを保護者が確かめる。 |
| どのように<br>(利用のさせ方) | いつも子どもが一人だけで利用し、保護者は子どもの反応に何も応じない。 | 子どもが利用している様子に目を配り、その反応や問いかけには適宜応答する。必要に応じて内容についての説明や話し合いを行う。                             |
| どこで<br>(場所や場面)    | 保護者が困った時、子どもが使いたい時は、どこでも利用可能。      | リビングなど保護者の目の届く場所で使う。食卓やベッド・布団、移動中の車内など、利用すべきでない場所や場面を予め決めておく。                            |